

## ●団体別会議で話し合われたこと

	課題（網掛け部分はその職種ならではの視点）	対応策（網掛け部分はその職種ならではの支援）
医師会・あま つなぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症だけなのか？適応障害も疑われる。</li> <li>・世話を焼いてくれる人とのつながりが必要（Kさんのみでなく） →団地の人や民生委員等の理解・協力が必要であり、それには行政からの働きかけが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合病院だけでなく、地域の診療所につなぐべき。</li> <li>・年齢的にも転倒骨折は絶対に避けなければならない。 →段差等も含めて生活動線の確認 →転倒しない環境づくり</li> <li>・周辺住民との関係づくりという点では、ラジオ体操に参加しているので、その機会を活かすべき。 →本人に役割があるといいかもしれない。</li> </ul>
歯科医・歯科 衛生士会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年をとると人との距離感がわからなくなることもある。</li> <li>・借金をすることも本人にとってコミュニケーション手段になっているのではないか。</li> <li>・他人との交流を拒否していない。人と交わることを目的とした援助が良いのではないか。</li> <li>・歯の痛みはなく、咀嚼・嚥下できているとのことだが、食生活がわからない。食生活がわかれば、もう少し踏み込んだ助言等ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出できる能力があることから、月1で外来通院に加え、歯科にも月1程度通院してもらい、外出の機会を創れないか。</li> <li>・お風呂が壊れていることから、「お風呂に入りに行こうよ」という誘い方で、デイに誘い出せないか。デイの食事をどの程度食べられるかで口腔フレイルも確認ができる。</li> <li>・口腔フレイルに陥り摂取カロリーが低下すると体が弱っていく。定期的な口腔機能の診断が望ましい。</li> <li>・気の合う方が上手く誘うと受診につながるのでは。</li> <li>・ラジセ当番のように、役割や目的を与えてあげることが、地域との関係構築などの援助につながっていくのでは。</li> </ul>
薬剤師会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のバイタルの測定・記録や服薬ができているか疑問。</li> <li>・服薬管理したら薬の内容が変わるかもしれない。（きっちり飲めていないから、このような薬の処方（内容・量）になっているかもしれない。）</li> <li>・食事の管理も必要。栄養が足りていないのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーにお願いして服薬管理する。</li> <li>・訪問診療、訪問看護、薬剤師など医療職が訪問して、医療的管理を行う。</li> <li>・Kさん以外のキーパーソンが必要（近隣住民、民生児童委員、CM、ヘルパーなど）。</li> <li>・まずは専門職がしっかりと話を聞いてあげることが大切。</li> <li>・薬剤師として無料で一度訪問して話をする（あわせて残薬の確認）。関係性を作った上でサービスとして介入。</li> <li>・ラジオ体操の他、何か役割を担ってもらう。</li> <li>・CMから担当する薬局に情報提供してもらえば薬剤師としてしっかり対応する。</li> </ul>
栄養士会・ 保健福祉セ ンター（地域 保健課）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不衛生。</li> <li>・金銭管理ができていないことからヘルパー等サービスが入っても、必要な支援ができない。</li> <li>・本人が生活環境を整えたり、適切な療養を行う必要性を理解されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に、住環境を整えたり、必要な治療を行うことについて納得してもらわなければならない。そのためには、ご本人が信頼している人から声掛けしてもらう。例えば、福祉サービス利用援助事業の利用するため、手続きを手伝ってくれるNPOを利用して、NPOの方と本人の信頼関係をつくるところから始める。</li> <li>・「困っていない」と言い切る方であっても、実際は困っているのだと思う。「何に困っているのか」自覚するのが難しいのでは。例えば、一旦清潔な環境で暮らせればその方がよくなる方もいる。どうすれば「困っている」ということを自覚してもらえるのかは難しいが・・・</li> <li>・イベント待ちという悪いように聞こえるが、支援者が関わり続け、現状維持しているのは価値のあること。関わり続けているから、イベントがあった時に即座に介入でき、大事に至らないケースも多いのでは。</li> </ul>

## ●団体別会議で話し合われたこと

訪問看護 ステーション 協会	<p><u>健康面の課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重症の心不全の既往があるが、定期的通院、内服管理、体重測定ができていないかわからない。病状の安定を図り、異常の早期発見の体制づくりが課題</li> <li>・転倒を繰り返し、介護度が悪化している。</li> </ul> <p><u>保清面の課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴ができていない。便まみれなど保清ができていない。感染のリスクが高く、尿路感染や呼吸器感染による心不全の悪化が予測される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護が導入できないのであれば、身体のことを心配する伴走者が必要。(CMやヘルパーなど)</li> <li>・本人に病識をもってもらい、服薬管理の必要性や日々の体重管理、血圧管理が必要であることを本人が認識でき行動変容につなぐ。</li> <li>・ヘルパーにお願いして服薬管理、体重測定、血圧測定、記録を行い、診察時に医師に見てもらい、病状の安定と異常の早期発見を行う。</li> <li>・Kさん以外に寄り添う人が必要。</li> <li>・ヘルパーやCMが本人の病気のことで看護師に相談ができる窓口があるといい。</li> <li>・病院退院時はカンファレンスがある。退院後も定期的なカンファを行い専門職や本人が病状や課題や解決策を共有できるといい。</li> <li>・ラジオ体操で役割をもっていることは強みであり、今後も支持していく。体操仲間による見守りが期待できる。</li> </ul>
居宅事業所連 絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動に参加出来る所があれば・・・</li> <li>・歩行器は段差があるので使用していなかった。 ⇒専門家（PT）等に実際の動作や、家を確認してもらうなどして使いやすい福祉用具の提案も必要では？</li> <li>・お金を借りていた人が居た。⇒借金の全容が分かれば。確認をする必要はあると思う。 ⇒実はその人たちも今までの支援者や、友人かもしれないから、今後関わってもらえる人も。</li> <li>・本人が思う部屋の片付け（室内環境）と、支援者が思う片付けには、片付いてきれいと思う所が違うのではないかな？ ⇒そういう意味でも今までの生活歴はやはり知っておきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の以前の生活歴や、成育歴等、本人が以前どんな生活をしていたのか？そういうことが分かるともう少し支援方法が出てくるのでは ⇒CMのアセスメントという所につながっていく。 居宅連としてはCM等の資質向上という意味で関わることが出来る。</li> <li>・インフォーマルな部分の情報収集のために民生委員に協力依頼する。Kさん以外にもラジオ体操に行っており、関わる人がいて、実は支援者になってくれる人はいるのではないかな？</li> <li>・医師やKさんからの部屋の片付けをすることのアドバイスは聞いてもらえるのでは？</li> <li>・Kさんがいない事での寂しさから、お金があるとお酒を買う→飲むにつながるのでは？ 本人の役割を考えると寂しさも減るのでは？家の中での役割（出来る事を考えてしてもらう）、地域での役割（ラジオ体操の役割以外）など。誘ってくれる人がいれば出来るのではないかな？</li> <li>・転倒予防のために、体力をつける、転倒しない生活の提案も必要かも。</li> </ul>
CM協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣人のKさんが骨折して支援できなくなったことに、本人が担える役割がないだろうか？支援される側ではなく、支援する側にまわることで関係に変化が生まれないかな？</li> <li>・サービスだけでは対応できない人がいる、自治会に地域に働きかけて…とか現実的には一つのケースにそこまでできないけど…本当は必要だと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拒否がある方に対して、「困ってないかな？」という問いかけだと「困ってない」という返答になるが、「〇〇さん、お久しぶりですね」という声掛けから始めると、意外と訪問を受け入れてくれることがある。</li> <li>・関わる支援者の誰かが本人の本音を聞いていることもある、支援者で情報の共有を図ることが大切。</li> <li>・周りに頼っていることを整理することで、本人の困っていることをアセスメントできる。</li> <li>・地域と関係性が悪くなっているのであれば、一度、地域と切り離し、生活基盤を整えてから地域との関わりを戻していくことで関係性を再構築できるかも。</li> </ul>

## ●団体別会議で話し合われたこと

<p>尼崎PT・OT・ST連絡会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・右手橈骨、右手尺骨の骨折前に医療・リハ職による早期対策が必要。転倒防止のために環境・移動手段対策などを含めて、どのタイミングで支援することができたのか？</li> <li>・Aさん自身が近隣住民から敬遠されている自分にどこで気が付くか？きっかけはあるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの生活歴（例：好きな物・相手求めることなどを含む）を詳しく確認のうえ、Aさんと相性の良い人が関わっていく。</li> <li>・Kさんがなぜ好かれていたのかを考え、支援に活かす。</li> <li>・《本人の意向》によると、Aさんは自分を表に出しているため、本人情報を本人の意向のもと、一緒に考える。本人の強みを生かす。</li> <li>・フレイルチェック・大腸がん検診、訪問介護などで関わっている人が言葉・動画などを共有し、24時間相談できる機関を作る。</li> <li>・サービス事業所ではなく、実際関わっている人がサービスを提供する。</li> <li>・運動などについて、CM・ヘルパー・Kさんを含む誰もが忙しい中でも相談できる窓口の構築。</li> <li>・気付き支援型地域ケア会議で検討中の同行訪問支援の活用。</li> <li>・室内が汚いことに気付いた後に、利用したい「お片付けサービス」。</li> </ul>
<p>ヘルパー協会・あまつなぎ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来る事と出来ない事の区別ができない方をどう導いていったらよいか。</li> <li>・同じようなケースで、ヘルパーが初回訪問すると、「何しに来た！」となぜヘルパーが来たのか、わからない方もいる。</li> <li>・本人からSOSを出さないと支援が難しい。</li> <li>・事前にCMと本人とで、相談できておらずヘルパーと本人が相談しながら訪問していく場合が多い。</li> <li>・生活保護の方で、同じように保護費をもらおうとすぐにお金を使い切ってしまう人がいる。また、お金の貸し借りをする人も同じようにいる。</li> <li>・地域との連携が必要だが、垣根がいっぱいある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の生活に課題は多いが、今の生活が本人の意向だったら、これ以上どうすることもできない。</li> <li>・形に、はめようとする、ヘルパーがいろいろ文句を言われる。（事前に本人の理解が得てなかったり、納得されていない）</li> <li>・団塊の世代の方々の時代背景を理解する。高齢者は、「社会貢献」の言葉が好き。</li> <li>・表面に見えている奥にある意向は何か？ひとつずつ紐解いていく。</li> <li>・出来る部分は、本人の役割。出来ない部分はヘルパーが支援。それぞれの役割をお互いに決めておくことが必要。</li> <li>・本人と一緒に目標を立てることが必要。</li> <li>・コミュニティーナースの活用</li> </ul>
<p>生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、日常生活を送れることも大切なことなのでは？この人の今後のゴール地点がないのでは？</li> <li>・本人との関係構築がまず重要なのでは？</li> <li>・住宅改修、環境整備も必要なのでは？本人の自立を促せるような支援も必要。</li> <li>・Kさんに頼りすぎている部分が課題なのでは？他の支援者を作る必要もあったのでは？</li> <li>・本人の周辺の交友関係がわかりきっていないのではないかとラジカセの管理など、ある程度、交友関係があるようにみえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミを捨てることができないなどの課題がある人に生活支援サポーターのサービスにつなげていったことがある。</li> <li>・県営住宅や市営住宅には、民生委員や組合の管理者など地域をよく知る人物がいる。</li> <li>・民生委員や区長など地域のキーマンは社協が把握しているので、情報提示はできる。</li> <li>・色々な人から情報収集していく必要があるのでは？</li> </ul>
<p>民生児童委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くのマンションがオートロックになっている。</li> <li>・民生委員というだけで介入を拒否される場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題のある世帯は、速やかに包括Cや社協につなぐ。</li> <li>・管理会社を介してアプローチを試みる。</li> <li>・見守り安心委員会は、各地域でほとんど行われており、登録を打診する。最低でも、2回/月の頻度で、委員が訪問・電話等で、状況確認をしてくれる。</li> <li>・新聞や牛乳配達を有効活用し、安否確認が出来る。</li> </ul>

## ●団体別会議で話し合われたこと

地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者がサービス介入を強く拒否する場合、大きな変化があるまで介入し難い（イベント待ち）状態になってしまうことが多い。</li> <li>・生活保護費をすぐに使い切ってしまう人はいる。金銭管理について、ケアマネ等から本人へアドバイス等の支援を行うケースが多い。（成年後見にスムーズにつなげることができれば良い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後見人が管理する以外にも、本人が金銭管理できるように、家賃・光熱費等と、生活費等の手持ちのお金を分かり易くできるよう説明していく。（保護課のケースワーカーが家賃・光熱費等の引き落としの手続きを行い、自動的に支払いができるようにしているケースもある）</li> <li>・このケースは生活保護受給者で、フードバンクの対象ではないが、フードバンクや日用品等の現物を届ける際にいろいろ話をして、信頼関係を築いていく。その上でもう一歩踏み込んだ内容の話ができるようになる。時間をかけてでもサービス介入に向けて話を進めていく。</li> <li>・Kさんのみでなく、数人くらいは地域に頼れる相手を作っておく。</li> <li>・災害時に停電した際に懐中電灯を上向きに立て、その上に水の入ったペットボトルを置くと、光が反射して照明の代わりになる。</li> </ul>
------------	---	---